

留萌教育局では、今年度留萌管内オンライン研修Accompaniment40を行い、管内の教職員の皆様が常に最新の知識技能を学び続け、学校改善、授業改善に資することができるよう取組を進めております。

2月22日(木)に第11回目(最終回)の研修を行いました。学校評価に係る動画を視聴し、参加者の実践事例や今後の展望等について交流を行いました。次のとおり研修内容とアンケート結果をとりまとめましたので各所属において校内研修等にご活用ください。

宮城県栗原市立志波姫中学校の取組 (第2回NITS大賞受賞動画) 教育計画の作成の工夫 ～学校評価の改善を通じて～



本校の学校教育目標の具現化に向けて、PDCAサイクルが確立した学校評価になるよう評価項目や手順を見直し改善した事例を視聴しました。学年ごとのワークショップを通じて課題の確認、改善策の検討を行い、具体的な改善策(5W1H)をコンパクトに冊子にまとめる特徴的な取組が紹介されました。

参加者とは「学校評価は学校教育活動の肝」という認識を共有し、参加者の学校の取組事例について交流するなど学びを深めました。※動画は右記QRコードから視聴できます。



活動内容

- ①: 本年度の重点目標について4段階で自己評価を行う。
- ②: 本年度の教育活動について、生徒・保護者アンケートを行う。
- ③: 自己評価、アンケートの結果に基づき、学校教育目標を具現化するための課題を学年で話し合う。
- ④: ①～③について、6部会に分かれ、課題の確認、改善策を話し合い、全体会に提案する。
- ⑤: 全体会で各部会から提案された改善策について協議し、具体的な内容(5W1H)を確認する。
- ⑥: 決定した内容を反映させた教育計画を全職員で分担して作成。
- ⑦: 具体的な改善策をコンパクトにまとめた冊子を作成。

※第2回NITS大賞受賞動画を基に義務班の作成

○ 参加者の様子から

今回は4校、5名の小・中学校の先生方とともに研修を行いました。アンケート内容をご紹介します。

- ・中学校校長 来年度以降も教職員が気軽に参加でき、短時間で参考になる講座を開催していただきたい。
- ・小学校教諭 他校の学校評価の生かし方が分かり参考になった。効率的に作業を分担して次年度の教育活動に生かしていかなければいけないと感じた。
- ・中学校教諭 他校の実践から、学校評価をグラフや相関図に変換するなど伝える方法の大切さを学んだ。また、学校改善は各教員が当事者意識をもつことがポイントであることが分かりました。

○ Accompaniment Program C.M Caravanの実施について

今年度、義務教育指導班では各市町村の教育委員会職員、学校管理職及び中堅教員を対象とした標記研修を行いました。次のとおり研修内容をとりまとめましたので各所属において校内研修等にご活用ください。なお、研修資料等必要の際は、義務教育指導班あて御連絡をお願いします。

2 授業改善に向けて

【R】客観的データに基づく課題の共有



課題となる指導事項は何か、既存の授業の改善ポイントは何かについて授業アイデア例を参考に具体的なイメージを共有する



【研修内容】

○ 義務班からの説明

- ・全国学力・学習状況調査結果の活用方法、質問紙調査の見方と校内研修の改善に向けて

○ 各校の交流

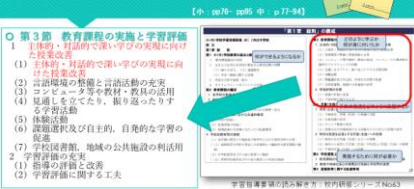
- ・中学校区内で各校の調査結果及び質問紙等の状況と分析の交流

○ まとめ

- ・児童生徒の資質・能力の育成を図る上で、全国学力・学習状況調査結果や学習指導要領等による自校の現状分析は、小・中連携や研修推進において有効であることから一層の活用に向けて、改めて取組を進めていただきたい。

2 授業改善に向けて

【R】1次資料の整理



- 第3節 教育課程の実施と学習評価
- 1 目的・目的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - (2) 言語環境の整備と言語活動の充実
 - (3) コンピュータや教材・教材の活用
 - (4) 見通しを立てたり、振り返りたりする学習活動
 - (5) 体験活動
 - (6) 課題選択及び自主的、自発的な学習の促進
 - 2 学習指導の充実
 - (1) 指導の詳報と改善
 - (2) 学習評価に関する工夫

学習指導要領の活用編(資料) 校内研修(リーダ) No.63

